

# 伊丹市文化財ボランティアの会 火曜会通信

第69号

発行日 : 平成28年 5月 1日

発行 : 伊丹市文化財ボランティアの会

発行所 : 伊丹市千僧1丁目1番地

## 平成28年度総会開催

平成28年度総会が4月12日（火）に開催されました。

今年は、会創立21年目が始まる節目の年であり、2年毎の役員改選の年でもあります。

松木 直志

竹中 稔

浮田 輝代

佐野 弘

山田 稔

監査 細川 勝海

顧問 池田 利男



池田会長



中畔課長

池田会長、中畔社会教育課長の挨拶の後、平成27年度の活動報告、会計報告、会計監査報告が承認された後、内田副会長より新年度会員50名の内、本日の出席者46名で総会は成立するとの報告がなされました。

池田会長より平成28年度役員人事が以下の如く提案され承認されました。

会長	内田 襄
副会長	松田 孝雄
〃	中尾 由紀子
会計	半澤 恵子
〃補佐	酒井 かづえ
幹事	山元 龍治



内田新会長

ここで新旧役員が交代して、平成28年度活動計画案、予算案が審議され、いずれも承認されました。

以下、新旧会長の挨拶、新入会員の紹介がなされました。

本年度は、

金川 幸雄さん（木曜グループ）

酒井 正憲さん（水曜グループ）

吉岡 弘員さん（水曜グループ）

と3名の新会員が参加されます。

最後になりましたが、退任された旧役員の方々、ご苦勞様でした。（山田 記）

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・右橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。

市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いいたします。（☎）

## 第21回文化財ボランティア養成講座

# ハイジ、ご存知？

### ～史跡めぐり～

平成27年度文化財ボランティア養成講座の最終イベント、史跡めぐりが3月19日(土)に行われ、一般参加者8名と受講生4名、会員合わせて18名が参加しました。

あいにく前日からの雨が朝方まで降り続き、出発時には止んだものの、傘の手放せない一日でした。

史跡めぐりのコースは以下のとおりです。①有岡城跡～②旧石橋家・③岡田家～④猪名野神社～⑤発音寺～⑥白洲屋敷跡～⑦臂岡天満宮～⑧伊丹廃寺跡

8か所のガイド個所を4名の受講生が各2か所を担当しました。受講生の皆さんは落ち着いた口調のガイドで、内容もよく聞き取れました。しっかり練習されたのでしょう。



猪名野神社でガイド

猪名野神社本殿の西側に上島鬼貫の句碑「鳥ハ未 口もほどけず 初桜」があります。ちょうど今の季節を詠んだ句で、ウグイスも出始めはぎこちない口調でしたが、わずかの期間でもうすでに上達しています

緑道から道をそれて、発音寺へ向かいました。お寺の好意で内部を拝観できるようにと本堂の扉を開けて頂きました。

発音寺といえば三面大黒天立像が圧倒的な存在感を示しています。薄暗い本堂で黒い



発音寺の本堂で拝観

漆塗りの短軀でふくよかなお姿、眼が白く光り、薄く開いた口元でニヤリと笑う表情はいつ見ても迫力満点です。

最後は伊丹廃寺跡、復元されている金堂と塔の基壇位置から、講堂・回廊・築地のあった場所を推定して、しばし古代寺院の伽藍の様子を想像してみました。

ガイドはここで終了、解散のあと4名の受講生に修了証書が手渡され、養成講座の卒業です。どうもご苦労様でした。あとは当会への入会をお待ちしております。

(松田 記)

## 有岡城から田能遺跡までを歩く

### 市内文化財めぐり歴史ウォーク

晴天に恵まれ、モクレンの白い花が咲き始めの3月12日(土)、市民・会員併せて33名が有岡城跡の石垣前に集合、猪名川流域の文化財を訪ねるコースに出発します。今回は尼崎市内の田能遺跡まで足を伸ばします。訪ねたコースは以下のとおりです。

有岡城跡(集合)→ 桑津神社→ 加茂神社→ 神津公園→ 春日神社→ 松源寺・阿部備中守正次の墓→ 田能遺跡(解散)

### 桑津神社

境内社の稲荷社は一間社流造(いっけんしゃながれづくり)で、西桑津村の旧火明(ほあかり)神社本殿です。空港建設に伴い現在地に移転・合祀され、桑津神社となりました。17世

紀中期の神社本殿として建築当時のまま保存されています。平成25年に市の文化財に指定され、27年には兵庫県指定文化財に昇格しました。



桑津神社稲荷社で説明

### 春日神社

口酒井の古文書によると天正8年(1580年)に当地に移されたとしている。本殿は県の文化財指定を受けた、一間社春日造りです。以前、神社東側は荒れた竹藪でうっそうとしていたが、今は開発されて一戸建ての住宅が神社に隣接して立ち並び、すっかり様子が変わっていました。

### 松源寺・阿部備中守正次の墓

江戸初期の寛永年間に口酒井・岩屋地区を領有していた、武蔵国岩槻藩 阿部正次が生前に好んだ当地で火葬に付され、墓所もつくられた。爾来370年間、墓は守られて今日に至っています。

### 田能遺跡

弥生時代の復元かや葺き住居 1 棟の葺き替えが十数年ぶりに行われ、作業が完成したばかり。厚く葺いたかや葺き屋根はどっしりとした量感があり、弥生時代の住居としては立派すぎるかな？

資料館内で館員の説明を受けたあと館外で終わりのあいさつ、次回5月21日の歴史ウォークを案内、12時ちょうどに解散しました。今回主催の水曜班の皆さん、どうもご苦労様でした。(松田 記)

## 昆陽井(ゆ)と雨乞い

### <研究発表>

松田孝雄

昆陽井 灌漑のために河川から取水する水路のことで、上流から下流の田畑へと順に水を供給する働きをする。水路の上流下流の村相互のつながりにより、井組(水利組合)を形成する。昆陽井は江戸期には昆陽・池尻・寺本・山田・野間・御願塚・堀池・南野の8ヶ村で構成していた。井親という井の元締は代々、昆陽村が勤めた。現在はこれに西野を加えた9ヶ村の昆陽井水利組合が井を管理している。なお昆陽池は昆陽・池尻・寺本の3ヶ村が利用、管理している。

昆陽井は武庫川から取水している。現在は灌漑用水に加え、伊丹市の上水源になっており、直径 500mm の送水管で昆陽貯水池、千僧浄水場へ送っている。市の昆陽井の水利権量は  $0.289 \text{ m}^3/\text{sec}$ 、平成 9~18 年の平均取水量は  $0.195 \text{ m}^3/\text{sec}$

前樋……武庫川から大堀川へ分流する。樋門には「昆陽井前樋 昭和二年四月新築」の銘板がある。

大堀川……売布の菰池より旧小浜宿の北面、西面、南面を巻いて流れ、宝塚市クリーンセンターを過ぎた地点で昆陽井と合流、500m 下流西野橋付近で昆陽井と分流して、武庫川に合流する。昆陽井の取水口には「昆陽井元樋」の銘板がある。

大樋橋……元樋から 1200m で天王寺川に架かる大樋橋に至る。現在は昆陽井川がサイフォンで天王寺川の下を潜っている。天神川の改修される以前は木樋が天神川を横断していた。

花里小の西側を流れる昆陽井川は情緒ある景観(親水空間)を構成している。昆陽寺の山門前を通過して国道171号線を斜めに横断する。

四つ合(よつごう)……国道171号線を斜めに



横断した寺本東1丁目、大樋橋から1800mの地点で昆陽用水が分流して、そのすぐ下流で御願塚用水、南野用水、平田溝、熊野溝の4つに分流する。

治とは水量を正確に分水する施設、取水口の寸法は厳密に管理されている。

昆陽用水、御願塚用水は流路が複雑で、現在たどるのが不明瞭な箇所がある。

南野用水は道路側部に設けられ、一部は覆工されているが容易にたどることができる。いずれの用水も金岡排水路に接続する。四つ治から南野用水の金岡川合流地点まで約2km、取水口から金岡川合流点までの延長は約5kmである。現在は用水流域に農地は殆どなく、むしろ排水路としての役割を果たしている。

## 雨乞い

雨乞いはさまざまな形式があるが、ほぼ5種類の類型がある。

- (1) 山頂で火を焚き、鉦(かね)や太鼓で大騒ぎをする。
- (2) 唄(うた)や踊りで神意を慰め雨を乞う。
- (3) 神社、神仏像、滝つぼなど神聖なものに対する禁忌を犯し、神仏を怒らせて降雨を強請する。
- (4) 神社に参籠し降雨を祈願する。
- (5) 神社や滝つぼなどの聖地から靈験ある神水をもたらってきて耕地に撒く。

北摂地域の武庫川、猪名川水系においては(3)の形式の雨乞いが見られる。

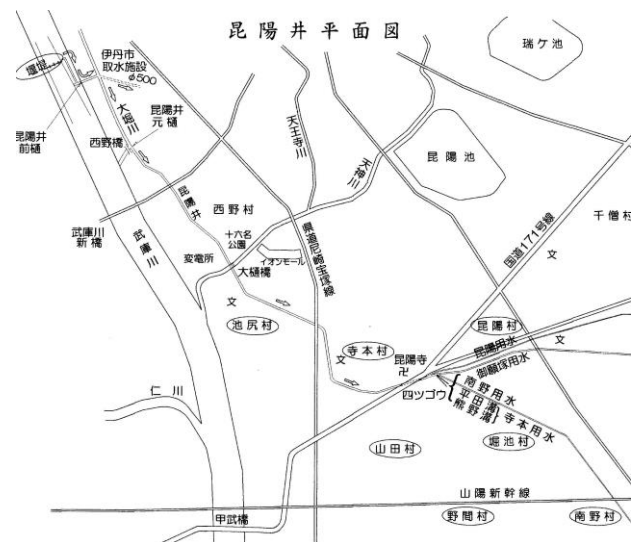
昆陽井組で明治十六年の大旱魃時に行った雨乞いについての記載が『伊丹市史』第6巻にあり、要約を示す。

『……まず寺で香をたき、郷中の者が寄って雨を乞う。白馬を入手して屠殺場につれて行き、血を一滴のこさずにない桶に取り、首を挟箱に入れて持ち帰った。寺で読経が続くなかで、雨ごいの行列を組んで武庫川の上流に向う。

生瀬(西宮市)のやや上手にコーライ岩とよ

ぶ大きな石がある。一行が着くと、挟箱からまず白馬の首を出して岩に置き、白衣の者が読経する。終わると、ミソダキとよぶコーライ岩の淵に首を落とす。若中にはない桶の血を岩一面に塗りつける。

行事が終わると、一行は来たときと同じ順序で村に帰る。途中で昆陽池により、池のまわりを右にまわる。当時はこのころから風が吹きだし、豆粒ほどの雨が降って、浴衣の藍がおちて晒のようになってしまったという。一行が帰るまで、寺では読経を続けている。……』



## <行基会資料 5>

# 行基の社会事業

## 1 天平十三年記

行基の社会事業について『行基年譜』で記述している「天平十三年記」は、井上光貞氏の研究によれば、信憑性のある資料とされている。従ってこの資料を基に述べたい。

行基が活動していた天平13年(741)に、それまでの事跡をまとめて、政府に提出していた資料を菅原寺別当が、多分、延暦23年(804)にまとめて、治部省に出したものと推測される。

その内訳は主に土木事業で下記のとおりである。

架橋・・・6ヶ所（摂津4・山城・2）

直通・・・1ヶ所（摂津と河内に通ずるもの）

池・・・15ヶ所（摂津6・河内1・和泉8）

溝・・・6ヶ所（摂津3・河内1・和泉・2）

樋・・・3ヶ所（河内）

船息・・・2ヶ所（摂津1・和泉1）

堀・・・4ヶ所（摂津3・河内1）

布施屋・9ヶ所（摂津3・河内2・和泉2・山城2）

これらは次のとおり大別できる。

- (1) 交通事業 架橋、直通、船息、堀
- (2) 灌漑事業 池、溝、樋
- (3) 難民救済 布施屋

## 2 社会事業の活動内容と地域

### (1) 行基前半期

この時期の平城京の難民救済（養老年間の集団托鉢）事業は、布施屋の設置（井上薫氏による天平13年記の山背・摂津・河内・和泉の9ヶ所設置説）、平城京で浮浪した役民・運脚夫の救済のための隆福院と石凝院の建立、平城京内で下級官人の宅地寄進による「菅原寺」建立などがある。

### (2) 行基後半期

この時期の主な土木事業は、池溝開発、交通事業に大別される。

#### 1) 池溝開発

養老7年の「三世一身法」以降、行基の農村布教において、技術集団や豪族（郡司クラス）との結び付きが考えられるが、ここでは特徴的な例として和泉国と摂津国を見つめる。この事業の主な地域は和泉国では大鳥郡、摂津国では河邊郡である。

和泉国は地形的に見ると西に大阪湾、東に葛城山脈、南は和泉山脈のL字型の山系に囲まれた丘陵地で、雨量の少ない瀬戸内

式気候で河川も短く、直接に灌漑することは困難であった。

摂津国河邊郡の山本里（村）は伊丹台地と呼ばれる洪積台地で、東に猪名川、西に武庫川が流れているが、台地面はこれらの河床よりも高く、台地上を潤す河川は長尾山丘陵より流下する水量の少ない河川しかなかった。これらの地域は水源を大きな河川に求めることができないため、溜め池が造られたと考えられる。

『続日本紀』には、国家によって行われた造池の例があるが、これらの造池が行われた時期は例外なく干魃であったことも記されている。つまり国家による造池は干魃対策を主とするものだった。

行基の造池も、これに対応するように、天平2年、4～6年、さらには9年の時期が干魃であったと『続日本紀』は伝えている。行基の造池も国家によるそれと同様に干魃に対する事業であった。

#### 2) 交通事業

天平初年の活動と国家事業との関連は難波における活動のなかにも認められる。行基が淀川河口で行った堀川と橋を中心とした交通施設の建設のうち、堀川は天平2年建設の善源院・同尼院との対応からその頃に堀削されたと見られ、同じ年に設立の高瀬橋院・同尼院と対応する高瀬大橋とともに難波宮と関わるものと考えられる。難波渡の造営は、川尻つまり中津河口をターミナルとする瀬戸内航路の整備にほかならない。

以上から明らかに、行基は和泉での溜池造りの段階から国家の政策と密着した行動をとるようになり、難波造都に際しては、淀川治水と難波堀江のバイパス水路堀削という造都事業の一翼を担う活動を展開した。

### (3) 行基と協力集団

この時期、池は谷地をせき止めて造営されたから、造池技術はつまるところ造堤技

術ということになる。行基自身もそうであるように、行基集団にはこの技術にたけた者がおり、この技術者はあるいは古墳造営などに携わっていた土師氏などでないかと考えられる。和泉国の大鳥郡内に土師氏が住んでいた北部に巨大古墳群(大仙古墳等)があり、これに関わった子孫がこの一族の可能性が高い。

一方、都市に居住していた下級官人層達の本来の本拠地は、畿内諸国に分散していた。そして平城京に集まった下級人層やその妻子達が、行基に帰依したことは、養老末年以降の行基の活動が、彼らの出身地である畿内各地へと展開していく上で重要な役割を果たしたと考えられる。

行基は朝廷が「三世一身法」など国家政策を推進していく上で、実務部分を支えていた下級官人層と彼らと同族関係にあり、墾田開発意欲を持つ畿内各地の在地豪族層や有力農民層と結びつきながら池などの灌漑施設を開発する活動を展開した。さらに恭仁京の泉橋架橋など平城京に次ぐ新しい都市の建設という国家政策にいち早く対応していった。

~~~~~  
[ 町の小さな文化財 第9回 ]

## 昆陽池の守護神 行波大明神



周辺村々の明細が記された昆陽組邑鑑(こや

文化三年昆陽池附近絵図をみると、昆陽池の北側に大池守護神 行波明神・善女龍王が祀られているのがわかる。

十八世紀後半の昆陽村および

ぐみむらかがみ)には以下の記述がある。

善女龍王 石祠 式尺四方

行波大明神 石祠 式尺四方

右両祠ハ行基時代昆陽大池開発之砌守護神として勧請仕候由申伝也、大池之北小松原両所ニ御座候 ………

さて現地を調べてみると、行波大明神は古地図の位置とおぼしき場所、大池橋北詰で健在である。なお「行波」とはこの附近の旧地名で、現在近くにある「中野行波公園」がその名を留めている。

いっぽう“善女龍王”は探しても見当たらず、あったと思われる場所は「中野明神公園」になっている。公園付近の旧地名は明神であり、おそらく以前に明神が祀ってあったことに由来するのだろう。

公園の裏側に現代風建物の妙興寺という



行波大明神の祠

お寺があり、その祠には新しい姿の白長大龍王が祀ってある。はたして善女龍王と関係があるのか寺に尋ねてみたところ、どうも関係はないらしい。

(松田 記)

~~~~~  
第2回 阪急・阪神沿線観光あるき

## 御願塚古墳・

## 昆陽池公園コース

3月6日(日)、心配していた雨も降ることなく、市内をはじめ、近隣各市から参加された40名とともに、阪急稲野駅を出発した。

[今回のコース]

阪急稲野駅→御願塚古墳→須佐男神社→了福寺・南野神社→昆陽寺→昆陽池公園→

## 阪急伊丹駅

この日はちょうど南野神社では「新年祭」の神事が行われる日だった。日頃は閉じられている本殿前の扉が開かれており、中の様子を見ることができた。

今回のまち歩きは、行基さんゆかりの地をたどるだけではなく、参加者それぞれが、思いがけない出会いや発見をされたようだ。



南野神社本殿

昆陽寺の境内が子供の頃の遊び場であったこと、その当時の思い出をご主人に楽しそうに話されていた女性。年配の女性は、幼き頃に学び舎で唄った歌詞が、行基さん詠んだ歌碑に刻まれたものであったことを発見し、おおいに感激された。その話を聞いた私たちガイドにも興味深い発見だった。

(藤原 記)

## 第3回 阪急・阪神沿線観光あるき

### 伊丹緑道コース

花曇りの4月3日(日)参加者9名で阪急伊丹駅を出発。伊丹廃寺跡を折り返しに約3.5時間で約6.8キロを歩くコースです。今年は満開の桜を眺めながらのウォーキングとなりました。

猪名野神社 → 緑道(白洲屋敷跡) → 辻の碑 → 臂岡天満宮 → 伊丹廃寺跡 → 緑ヶ丘公園と順調に進みました。緑ヶ丘公園内の鴻臚館では、抹茶と美味しい練り菓子をいただ

き「ホットひと息」。公園の池の水面に映る桜を後にして妙宣寺 → みやのまえ文化の郷には予定していた午後1時過ぎに到着しました。



緑ヶ丘公園の桜

参加者の中に、「子供の頃に伊丹で育って緑ヶ丘公園にお花見に連れて行ってもらったことがありました。」という方がおられました。昔の記憶を紐解きながら「この道を通って行ったのかしら?」「伊丹はずいぶん変わりましたね。」などと楽しいおしゃべりをしながら昔話に花が咲きました。

次回の観光あるきは、薔薇が一番美しく咲く春バラのシーズンに予定されています。花はもちろん香りも素晴らしいので、是非どうぞお越しください。

(古結 記)

## [ ガイド豆知識 第8回 ]

### 御祭神

#### 「素盞鳴尊と須佐男命」

伊丹市内には、「スサノオノミコト」を御祭神とする神社が多くあります。

「スサノオノミコト」は、伊弉諾(いざなぎ)・伊弉冉(いざなみ)二尊の生んだ、記紀神話の男神です。姉天照大神・弟月読命とともに3貴神の1柱で、この神に関する神話は、すべてに勝ち荒々しい振舞をされる話が多いようです。





御願塚須佐之男神社

720年完成の日本書紀では、「素盞鳴尊」と書き、父神より、「滄海之原(あおうなばら)を治めよ」と命ぜられたと記されています。



中野素盞鳴神社

また、712年完成の古事記では、「須佐之男命」と書き、「海原(うなばら)を治めよ」と命ぜられたと記されています。文字は違いますが、同じ神様なのですね。ところで……

伊丹市内で「素盞鳴尊」を御祭神とする神社には、中野素盞鳴神社・西野素盞鳴神社・東野春日神社(もとは素盞鳴神社と称し、旧長尾村の春日神社と合併)・桑津神社(中野素盞鳴神社が合祀された)などがあります。

また、「須佐男命」を御祭神とする神社には、野間健速神社・御願塚須佐男神社・南野神社(もと須佐男神社と称し、少名彦神社と合併)・伊丹猪名野神社(猪名野坐大神＝健速須佐乃男命)などがあります。

本によっては、「須佐之男命」「須佐男命」と書かれています。須佐男神社は早い時期(奈良朝時代)に、素盞鳴神社は江戸時代に建立された神社が多いようです。(中尾 記)

《参考図書》

「日本の神話 読み解き事典」川口謙二編著  
「伊丹の神社」伊丹市神社総代会

## 京・アラカルト ②

### 「村重の惣構を真似た

### 秀吉の御土居」

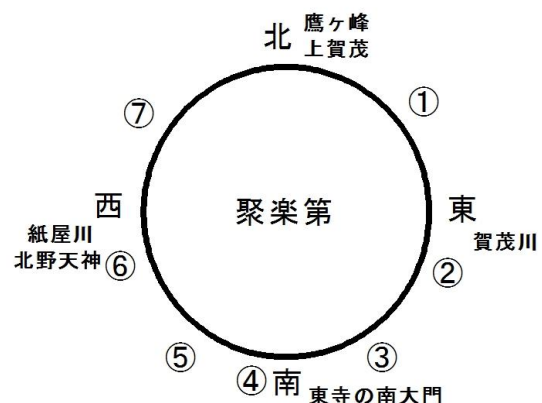
池田 利男



中世の京の都には、室町時代(8代将軍・足利義政)より「七つの口」に関所を設けて、率分所で関銭が徴収されていた。(率分と言うのは、薪炭雑物にある率をもって税をかけることである。伊勢神宮や禁裏御造営の費用調達の為)豊臣時代に秀吉によって聚楽第が造営され、新たに「御土居」が整備された。総延長・五里二十六町に堀を堀り土を盛り上げ、水を引いて御土居を造った。天正十九年五月に完成。

#### 京の七口

- ① 鞍馬口「北陸街道」
- ② 栗田口「東海道」
- ③ 伏見口「伏見・奈良街道」
- ④ 東寺口「山陽道」
- ⑤ 鳥羽口「西国街道」
- ⑥ 丹波口「山陰道」
- ⑦ 長坂口「周山街道」





## 皆さんよろしく

今期入会された3名の方々に、それぞれ自己紹介をしていただきます。1日も早く会の雰囲気慣れて実働部隊として活躍される事を期待しています。



### 金川 幸雄

伊丹に住んで、40年になります。

私の家の近所に大きな石碑があります。以前、通勤時にはよくその前を通っていました。立て札を読むと、それが南北朝時代の武将、高師直の首塚だと知りました。こんな身近なところに歴史の1ページが落ちているのかと、驚いたものです。

その後、伊丹市には様々な文化財があることを知り、定年退職して時間が出来たら、伊丹の史跡を学んでみようと考えていました。

昨年40年間勤めた会社を退職し、早速文化財ガイド養成講座に参加しました。歴史に触れたいという軽い気持ちで参加したため、人前で上手くガイドが出来るか不安な気持ちです。まずは諸先輩のお手伝いをしながら、少しずつ観光ガイドに慣れていけたらと考えています。

その他、読書・家庭菜園・ウォーキング・テニス等で、退職後の日々を過ごしています。



### 酒井 正憲

水曜グループに入会しました21回生の『酒井正憲(まさのり)』です。

住所は車塚で、近畿中央病院前の分譲マンションに住んで13年目になります。生まれの干支(えと)は酉(とり)年で、星座は牡羊座です。

出身地は愛媛県松山市です、この地は加藤嘉明が創設した『松山城』や日本最古の

『道後温泉』、俳人『正岡子規』や坊ちゃんの『夏目漱石』など、そして司馬遼太郎著の『坂の上の雲』の秋山兄弟がよく知られております。

仕事は合織メーカーに勤務し、初めの10年は研究開発、その後30年は繊維営業を経て定年退職後は、五代友厚が設立した大阪商工会議所で広告営業を8年間携わってきました。趣味は旅行、昔のまち歩き、ウォーキングで、笹原公園を毎日歩いています。

住家が伊丹市の南端でハンディがあります、『火曜会』への入会を機に、『自分の住むまち伊丹市を知りたい!』と思っておりますので、先輩の皆様方、どうかご指導・ご支援頂きますようお願いいたします。



### 吉岡 弘員

名前は吉岡弘員(ひろかず)。「ひろかず」とは読めない名前だとよく言われます。昭和30年(1955年)6月生まれ、未(ひつじ)年、双子座、

O型の60歳です。妻、息子二人の四大家族ですが、現在は妻と二人暮らしです。

神戸生まれの神戸育ちですが、伊丹の中野西に住まいをかまえて25年になります。趣味の旅行を兼ねたライフワークとして、「日本100名城巡り」にチャレンジ中です。2009年に「日本百名城塗りつぶし同好会(サイト)」にエントリーして本格的にスタートさせましたが、まだ道半ばの57城クリアです。60歳代での達成目指して頑張っています。100名城巡りの地元ボランティアガイドさんとのふれあいの中で、生まれ育った故郷のことをより多くの人に知ってもらえる活動だと感じ、これなら(無理なく)少しは世の中のお役に立てるのではないかと思い、同会に入会させていただきました。今後ともよろしくお願ひします。

# 発掘調査 現地説明会

## 伊丹郷町遺跡第368次調査

4月16日(土)午後2時より荒村寺近くの伊丹町3丁目で2月から発掘していた郷町遺跡の現地説明会が開催されました。



担当者の説明を聞く参加者

開始10分前に会場に着くと既に押すな押すなの人ばかり。伊丹には、こんなに歴史好きが多いんだと驚く。



水琴窟

今回の発掘調査の成果としては、南北に走る有岡城時代の堀跡が発見された事と、伊丹郷町時代の礎石建物や水琴窟、搾油機など多数の

遺構が検出されたことである。

(山田 記)

## 活動記録 (2月~4月)

**定例会** ・2/9 (火) ・3/8 (火) ・4/12 (火)

**案内ガイド** ・2/10 (水) Aコース (マリオ会 箕面市) ・2/18 (木) Dコース (大阪区民カレッジ「なんしゅう会」 大阪市) ・2/19 (金) Aコース (大阪市役所退職者会 大

阪市) ・2/25 (木) 岡田家 (読売新聞わいず倶楽部千里交流会 大阪市) ・3/6 (火) Aコース (ハイキングアーモンドの会 大阪市) ・御願塚古墳~昆陽池公園 (阪急・阪神沿線町あるき) ・3/8 (日) Aコース (シニア自然大学校 大阪市) ・3/18 (金) 岡田家 (読売新聞わいず倶楽部千里交流会 大阪市) ・3/26 (土) Eコース (堺場地区福祉まちづくり協議会 伊丹市) ・4/3 (日) Aコース (健康さわやか 高槻市) ・緑道コース (阪急・阪神沿線町あるき) ・4/4 (月) Eコース (新日本婦人の会宝塚支部 宝塚市) ・4/16 (土) Aコース (中戸満 豊中市) ・4/17 (日) Aコース (さんいち会 西宮市)

**どんぐり座公演** ・2/12 (金) 桜台小学校 ・2/18

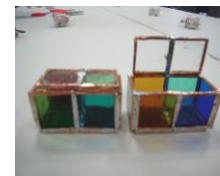
(木) 昆陽里小学校 ・2/19 (金) 稲野小学校

**歴史ロマン体験学習支援**

・2/20 (土) ステンドグラス風ライトを作ろう



作業風景



作品

・3/5 (土) 蓄音機をつくろう ・4/23 (土) 万華鏡をつくろう

**有岡城跡の清掃** ・2/23 (火) ・3/22 (火) ・4/26 (火)

## 今後の予定 (5月~7月)

**定例会** ・5/10 (火) ・6/14 (火) ・7/5 (火)

**案内ガイド** ・5/14 (土) Aコース (全薬道修町 枚方市) ・5/15 (日) Eコース (京都観照会 向日市) ・5/26 (木) Bコース (武庫ネーチャークラブ 西宮市)

**歴史ロマン体験学習支援** ・5/21 (土) ステンドグラス風ライトをつくろう ・6/4 (土) ポンポン船をつくろう ・7/9 (土) 印鑑をつくろう

**有岡城跡の清掃** ・5/24 (火) ・6/28 (火) ・7/26 (火)

### 編集後記

原稿も集まって、ほっと一息ついていたら熊本県の大地震。我々の住む日本列島には安全な場所など何処にもないことを痛感しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の方々に支援の手を差し伸べましょう。(M.Y.)